

● ● ● 第1回 枕崎国際芸術賞展 入賞・入選作品一覧 ● ● ●

作品名	氏名	都道府県・国
大賞		
[平] White Cube-12、[平] White Cube-18 ※2作品	菅亮平	東京都
準大賞		
[平] うつろい時、[平] ガラスの部屋 ※2作品	王青	千葉県
佳作賞		
[平] 牧羊驢	許以璇	台湾
[平] Awakening III	青木香保里	東京都
[平] 観察箱Ⅲ	林郁珮	台湾
[平] 豊影	陳佩歆	台湾
[平] 月と風車 201509	秋元なおと	大阪府
[平] AQUA	菅かおる	福岡県
[平] mountains	佐藤真美	徳島県
[平] Solemne III	吉岡由美子	東京都
[立] 呼吸—疑似空間—、[立] 浮遊—仮想空間— ※2作品	奥田秀樹	広島県
[立] ささやき2	翠蓮	愛知県
協賛賞		
[平] 一本の梃子、こじ開けられたのは都市に過ぎない	イェンウェイジョン	中国
[平] Stand on your own II	浅野智	千葉県
[平] 窯 IV、[平] 窯 V ※2作品	カミムラケイサク	東京都
[平] 扉	樋口奈穂	東京都
[平] spindle-shaped_2016_m1、spindle-shaped_2016_m2 ※2作品	溝口昭彦	岩手県
[平] 感覚賞3	則松夏凜	長崎県
[平] 13/MAY/2014 16:07,Sent John Street Cambridge-UK、Width：38cm Length：39cm、Depth0.1cm、17” Fair	34	東京都
[平] てのひらより虹は生まれ	市村妙子	茨城県
[平] 枯木圖「腐った木図」	呉承翰	台湾
[平] 排除未知物質危機	劉茜懿	中国
[平] Pique Island	山口由佳子	東京都
[平] 音の景(カゲ)—水上の音楽—	田中章恵	東京都
[平] 微香	根垣睦子	兵庫県
[立] 〔観覧〕オオサマダガカラ、[立] 〔観覧〕ナンヨウダカラ ※2作品	カネコ マスヲ	栃木県
[平] 月に群雲 花に風 3	栗山由加	千葉県
市長奨励賞		
[平] 夢判断、無意識下のエゴとアニメ	深作秀春	神奈川県
[平] 文明の痕跡	藪内一実	兵庫県
[立] 紅虹	林建志	台湾
入選		
[平] 現代の般若	Monzo渡邊	山口県
[平] ORADOUR	福長弘志	広島県
[平] 突然の非日常2016	光山茂	茨城県
[平] 鏡に映った風景	藤原順一	兵庫県
[平] 夏について	松田俊哉	東京都
[平] 明日からの光	松島英樹	兵庫県
[平] 2016. 夏. 宴(うたげ)	おぐらせつこ	兵庫県
[平] 月光蝶	小牟禮雄一	鹿児島県
[平] SとNの詩 I	野田秀樹	愛知県
[平] フェイントシーン	呉思慧	台湾
[平] たとえば夜の公園で	落直子	兵庫県
[平] <見えたこと、見ること、見ようとする こと IV>	大浦雅臣	神奈川県
[平] DRAWING-PHOTOGRAPHY 1601	山崎直秀	和歌山県
[平] 共存するつながり	ナガツチョ	千葉県
[平] Turn to reality	生川和美	三重県
[平] 瞳	近藤オリガ	愛知県
[平] KAのAJITO	小川かおり	福岡県
[平] ニューヨークは はれのちくもり	岩永敬子	福岡県
[平] Life 2016	中原未央	福岡県
[平] 死にゆく影	上木原健二	鹿児島県
[平] 婦人像Ⅲ	松井眞善	岐阜県
[平] 静寂の破壊 II	大庭明美	福岡県
[平] WOODcut I	山下哲郎	山口県
[平] 再生	水崎勝司	福岡県
[平] 樹海	黒崎加津美	千葉県
[平] 素材留置	中本裕史	広島県
[平] 水ぬるむⅢ	田中章雄	京都府

[平] Flora	緒方文子	長崎県
[平] 大地漂流—' 16	久保輝秋	福岡県
[平] 阿檀	中村哲郎	鹿児島県
[平] 確かであること	寺園俊子	神奈川県
[平] 円相-花艶	松尾在時	東京都
[平] 記憶 I	通島朋子	鹿児島県
[平] 閑寂の中に VI	明智慧	兵庫県
[平] 0時の壁・記憶のあと I	古谷幸明	山口県
[平] 木	西田理菜	山口県
[平] sisters # 1	山影広野	滋賀県
[平] あ、花の中でお日様が光っている	柳澤武雄	東京都
[平] 津軽平野の猛威	木庭康徳	愛知県
[平] 身理之参	許美銘	台湾
[平] INSTALL PAINTING-KOKI TANAKA_2014	ホーガン・ジェシー	オーストラリア
[平] 聳える(そびえる)	西垣肇也樹	京都府
[平] 風景画図	太中美由紀	千葉県
[平] 道	大森隆史	神奈川県
[平] ここがどこなのか、どうでもいいこと	フクシマサトミ	京都府
[平] 幻想	興津真紀子	京都府
[平] 宇宙のどこかで	安野慎司	大阪府
[平] gift #phosphorescence	井上トモヒロ	愛知県
[平] Amburghese di cuore(no,4)	井上トモヒロ	東京都
[平] みち	中島隆太	東京都
[平] 冬の訪れ	中山雅照	東京都
[平] Instincts	李彦蓁	台湾
[平] ヒンダローベンの薔薇	湯琳	中国
[平] 境界	永江絹子	兵庫県
[平] 彩響瞬景	前田和子	兵庫県
[平] Layers of Days	瓜生剛	千葉県
[平] 夜の終宴 I	ピセル奈乃子	鹿児島県
[平] さよならと去ります	麻生亜里	大分県
[平] 風の行方	蘇盈葵	台湾
[平] 硫黄岳	松尾ヒロシ	福岡県
[平] 風辿る	田中宏和	鹿児島県
[平] 空花	濱田尚吾	鹿児島県
[平] SCORA' 16 —睦まじく—	平木美鶴	徳島県
[平] 2 weeks	山下晴道	鹿児島県
[平] Lotus Pond	池辺法子	大分県
[平] 海面(うなも)	能祖文雄	香川県
[平] 楽園(らくえん)	田中二三子	兵庫県
[平] 夏	中釜幹敬	鹿児島県
[平] たらしめるもの	三輪裕治	兵庫県
[立] 朽ちる	小畑亮平	大阪府
[立] 「Earthシリーズ Rain」	竹道久	鹿児島県
[立] 時間軸 C	本原亮一	岡山県
[立] Channeled journey—導かれし旅—	原透	神奈川県
[立] かたちの標本 —翼果—	幸田大和	奈良県
[立] Untitled I、[立] Untitled II ※2作品	勝川夏樹	茨城県
[立] 青い卵、使えない柱 ※2作品	安東幸夫	大分県
[立] 浮力	松島英樹	兵庫県
[立] 何か見えますか	安川弘造	福岡県
[立] 酵素的反応1601	橋口典美	鹿児島県
[立] Elements	日高美杏果	福岡県
[立] 天平の空	サバコ	大分県
[立] 2016開	伊藤正人	埼玉県
[立] ウンターズバルクの春	佐々裕治	愛知県
[立] 風景とのつながり	岩木詩緯子	鹿児島県
[立] 環	川村秀彦	鹿児島県
[立] 土からの収穫～2016春	松本憲宜	東京都
[立] Arrowhead	青木邦眞	埼玉県
[立] いかなる共棲みであるのかは	平田隆宏	愛知県
[立] The DOOLES/ドゥードルズ	小畑亮平	大阪府
	大野修	福岡県

※[平] は平面作品、[立] は立体作品

審査員 講評 一抜粋一



千住 博
(せんじゅ・ひろし)

画家。2007年から2013年まで京都造形芸術大学学長。現在は同大学教授。

枕崎国際芸術賞展講評

描きたい世界を描きたいように描く。それが制作の基本です。しかしそれに加えて、コンクールで入選や受賞を目指したり、世の中に影響力のある画家になりたい、と望むならばどんな心構えが大切なのでしょう。賞を獲ったり、世の中から注目されたりする作品は「世の中から必要とされている作品」ということです。つまりそれは、作品の中に「人々が必要とするメッセージ」があり、人々が「私の代わりに描いてくれた」と共感する何かが存在する、ということなのではないでしょうか。ではそのような作品を制作するために実際どうしたらいいのか。これは私の経験や周囲の芸術家たちと接していて感じることなのですが、まず根本に、芸術家だからといって浮世離れた生活を送るのではなく、ごく一般の「普通の人々」の一員として社会に生きる、という共通項があるようです。そして同時に、歴史を学び、美術史観をきちんと持ち、美についての立場を明確にしているということです。それらを通して、なぜ今これを発表しなくてはならないのか、という世の中に必要とされるメッセージを「普通の人々」の視点から開拓してゆく、これが基本的な姿勢だと思うのです。言葉を変えれば「私は」ではなく「私たちは」という意識を持ち、誰とも変わらない人間が、今こんなことに感動し、こんなことに美を感じている、ということを一人数でも多くの人たちと共有したいと感じ、発信してゆく、ということになります。自分一人の世界にはまり込むのではなく「私たち」の代表として世界を語る、という意識です。そしてそれが国を超え、宗教も思想も越えて評価されるには、全ての人々の共通項である「人間」として見て、感じるということが必要です。日本人として、とか中国人として、とかではなく、うれしければ笑い、かなしければ泣く、同じ「人間」として「人間」という共通項で語ること、これこそが芸術家の発想というものです。そしてこの時大切なのは、私たち一人一人の心が感じている真実の叫びに耳を傾けるデリカシーの存在です。枕崎国際芸術賞が以降広く世界から注目され、新人の登壇に欠くことのできないコンクールになることを確信した、今回の審査でした。



保科 豊巳
(ほしな・とよみ)

画家。2013年から2016年3月まで東京藝術大学美術学部長。現在は同大学理事・副学長。

審査を終えて

鹿児島島の南端、枕崎港に夜な夜なみんな散歩に出かけました。穏やかな風と静けさ、吸い込まれるような闇の夜空に星がきらめいて語りかけていた、そこは時をおもう港でした。朝の散歩はやはり気流に乗ってゆったり飛行する巨大な鷹の姿に私の気も浮いていました。子どもたちは夜遅くまで学習塾で通りすがりの私たちに元気なあいさつをかけてくれました。市場で地元話を交わしたおばあさんの饅頭、この街に物語を感じながら、これから始まる国際展について思いを馳せて私の枕崎での審査は始まりました。

第1回枕崎国際芸術賞展は、世界から多くの多様な作品や高いレベルの作品の応募がありました。

このことは、九州の枕崎から世界に向けて発信する国際展としてその成果が証明されたことでもあると思います。

審査の過程が一般に公開されて行われたことは、審査員の芸術に対する公平性と信頼性の宣言であると思いますし、「よいものはよい」という審査員の決意の表れであり、グローバルな評価を目指す国際展の実例を示したいという目的を持ったものです。

800点の受賞応募作品の中から127点までの入賞・入選を選考する厳しい国際審査になりました。何回もの審査をくり返し、この審査の間それぞれの作品に対し、審査員の評価する観点についての意見を交わしながら真剣に進められました。

最終的に残った賞候補の作品は、非常にレベルの高い作品群となりました。さらにそこから紛糾する審査の中で大賞と準大賞が決定されました。この2点は、ほぼ3人の審査員の票が一致した点で共通する表現の高度なグローバル作品(世界で通用する)であったと思います。

他にも大いに期待を抱かせる作品が多数あり、次回を楽しみにしております。

最後に、この国際展に懸ける枕崎市の思いは大変評価されるものです。なぜならば、地方でも国際的な文化の発信拠点となれることを示す、稀にみる力強い試みを実証しているからです。



曲 徳益
(きよく・とくえき)

画家。台北芸術大学教授。關渡美術館館長。

枕崎国際芸術賞展講評

今回、枕崎市の国際芸術賞展の審査員になったことは光栄に思います。

今回の展覧会に対して私は少し心配していました。私がこちらに来て審査するので、外国の作家が多く選ばれるのではないかと心配していましたが、審査に当たっては国籍などは特に問わず、芸術、コンセプト、そのような価値から私たちが作品を審査したことを誇りに思います。

現代アートというのは、マテリアルで判断するものではないです。作家が持つコンセプト、考えていることが表に現れてきます。芸術家たちの作品からは、誰がどの国から出てきたかとかは判断ができません。私たちが見たのは、ただただ芸術という作品ばかりでした。これで分かるように、グローバルという時代が来ていると、私は再度考えさせられました。

今回の審査は、公正、公平、公開の3つで表されていると思います。

台北でも台北美術館が主催している芸術展があります。受賞した作家たちは、その後にすぐ成長し、台湾を代表するようなアーティストとなっています。私が願うのは、台湾と枕崎の国際芸術賞展で選ばれた作家たち、入選・入賞した作家たちがどんどん成長して、それぞれの国を代表するような偉大なアーティストになって欲しいということです。

賞金もいいですね。芸術家たちにとって、受賞履歴はとても大事です。その履歴に枕崎の賞を貰ったと書くことは、芸術家たちにとっても光栄なことであり、同時に彼らが創作を続けていく道の中で、履歴を見た者もアーティストを通して枕崎を知ることができる。枕崎をもっと多くの人に知ってもらおう。それはいいことです。

作品については、お二方の先生が十分に評価をしてくださいました。枕崎にお招きいただいて、とても楽しかったです。温泉にも入って、とてもいい時間を過ごせました。この国際芸術賞展、そして受賞をした人を通じてたくさんの人たちがきっと枕崎に来るでしょう。